大学連携会議「学輪IIDA」全体会
共通カリキュラム構築プロジェクト

飯田における伝統工芸【水引産業】の活性化に向けた調査報告

2014年1月25日

酒井　理　　(法政大学)
高島　知佐子 (京都外国語大学)

学輪IIDA共通カリキュラム構築プロジェクトの目的

市民・学生・教員による教育実践
南信州・飯田の価値の共有化
新しい社会像・地域像をめざす実践的学習

学輪IIDA
市民と大学による
知のネットワーク

持続可能な南信州・飯田をめざす実践　・　社会的イノベーション

新しい社会像・地域像
持続可能な南信州・飯田モデル

学輪IIDA共通カリキュラム構築プロジェクトの目的

飯田で何を学ぶのか？
どのような人材を育成するのか？

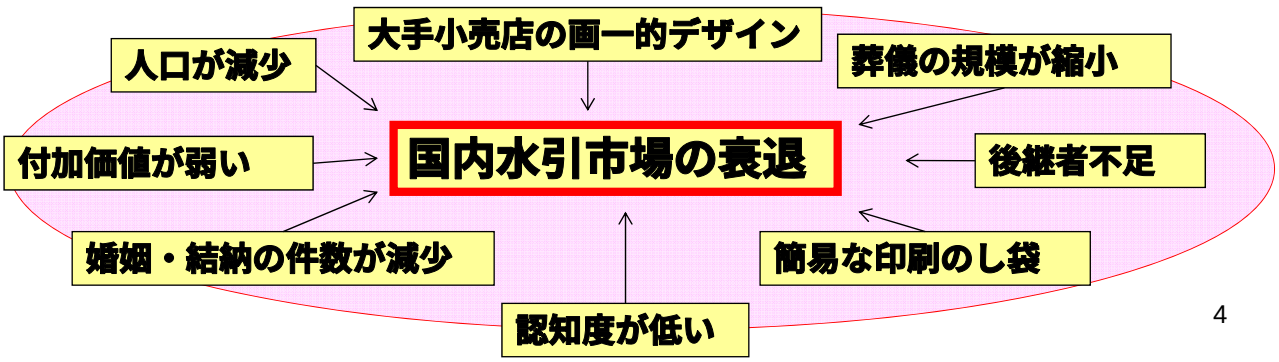
理念、コンセプトを実現するために必要な教育
→ 教育目的の達成に必要なカリキュラムの構築

★理念･コンセプト
飯田で何を学ぶのか？ （飯田が故に学べるものは？）
→ 例えば、「伝統工芸の技術の継承と創造」・「食･食文化」など
どのような人材を育成するのか？
→これからの飯田に必要な人材･これからの日本に必要な人材

★モデルカリキュラムの構築
例えば、日本の伝統工芸や技術（消失しつつあるが価値のあるもの）を見つめ直し、それをデザインする （付加価値を付ける）「モデルカリキュラム」を作成し、実践できないか。
そのようなモデルカリキュラムの作成や実践を、複数の大学が連携して、地域とともに作れないか。

伝統工芸「飯田水引」の継承、発展モデル

★ 飯田水引を取り巻く状況・概要
- 全国の水引製品の約70%を生産する飯田下伊那地域の伝統工芸だが、近年は人口減少、ご祝儀袋や結納品として使われる婚姻及び結納件数が減少の一途をたどっている。
- 香典が使われる葬儀市場では価値観や経済状況の悪化等により小規模化の動きが進んでいる。
- 大量生産が可能で、手に入り易い安価な印刷物ののし袋が主流になっている。
- 以上の要因から水引市場が衰退しており、地域経済を支えてきた伝統工芸の新しい発展の可能性を模索するため、水引業界関係者の実態を調査する。



飯田水引共同調査実習の概要

★　ヒアリング調査
目的
　・地場産業（伝統工芸）である飯田水引を担う企業の取り組み状況などの実態把握
ヒアリング対象
　・水引の製造販売を行う飯田市内の企業
　・飯田市の産業振興に携わる行政職員
　・一般市民

★本調査の目指す方向
地域産業として水引を発展させていく方法の検討・提案

-マーケティングの視点
法政大学キャリアデザイン学部・酒井ゼミ
　・水引の発信方法、新製品、新たな用途開発

-地域活性化の視点
京都外国語大学外国語学部・高島ゼミ
・市民への浸透、人材育成

飯田水引共同調査実習の内容

(調査前@各大学にて)
0　事前学習…各大学で事前に水引の歴史や産地、その他の伝統工芸品等を調査

(共同学習@飯田市・2泊3日)
1　基礎学習…水引体験を通して水引の特性を知る→「使い捨て」「耐久性がない」
2　ヒアリング調査
　メンバー：2大学混合のチーム（4つ）＋各チームに教員または市職員
　4チームで手分けして2日間にわたって企業と行政へのヒアリング
3　調査内容の整理と共有…2大学合同で水引業界が抱える課題の整理・共有

(調査後@各大学にて)
4　課題の分析…水引産業を取り巻く状況の分析
5　対策と提案…水引産業の育成・発信につながる提案の検討

(調査結果・提案@飯田市12月6日)
6　事業の提案

飯田水引共同調査実習の進め方

	ヒアリング内容	必要な要素	目指す方向性
法政大学・酒井ゼミ マーケティング	①水引産業全体及び各企業のこれまでの取り組みと現状 ②水引産業及び企業のこれから ③水引職人、水引産業に携わる人々のキャリアデザイン	・用途開発 ・新製品開発 ・販売促進方法 ・イベント実施 ⇒新しい価値の創出	水引産業の発展 ◆売上の増加 ◆雇用の促進 ◆産業育成 ◆地域イメージの定着
京都外大・高島ゼミ 地域経営	①飯田市の産業振興施策 （継承・発展させていくことの意義） ②伝統産業の現場が抱える問題点と現状 ③飯田市の今後の環境の変化 （リニア中央新幹線開通を見据えて） ④市民と水引産業の関わり	・水引の技能継承（共通認識） ・市民への水引の普及 ⇒価値への気付き	

飯田水引共同調査実習のヒアリング先

企業12社
(有)田中宗吉商店、(株)松文、(有)上田屋のし店、(有)大栄
(株)喜久優国風水引工芸(株)、萬泰産業(株)、大橋丹治(株)
(有)イワハラ、(有)野々村水引店、(株)神明堂、木下水引(株)

行政
飯田市工業課
(公財)南信州・飯田産業センター

市民
飯田市街地で市民の意識調査
（京都外国語大学）

飯田水引共同調査実習の結果

【水引企業、関連事業者の意識】

◆水引の文化を広げたい。
◆展示会などに出展しているが･･･。
◆オーダー制で新商品開発に力を入れている。
◆自社経営に手一杯。
◆新しいことを試すが結果が出ない。続かない。
◆水引を知らない相手との連携は難しい。

【行政関係者の意識】

◆地場産業を盛り上げていきたい。守っていきたい。
◆産業センター内で販売、物産展に出展しているが･･･。
◆飯田水引に対して、特別な支援はしていない。
◆組合との話し合いの場がない。
◆組合が独自に事務局を持っているため、組合との接点がない。

共同調査実習報告会の開催

◆報告会の開催
平成25年12月6日（金）　15:00～17:30
飯田市役所本庁舎3階　301号会議室

◆報告者
法政大学キャリアデザイン学部　酒井ゼミ4名、酒井先生
京都外国語大学外国語学部　高島ゼミ4名、高島先生

◆参加者
飯田水引組合理事9名
南信州･飯田産業センター職員2名
飯田市企画課職員4名

◆内容
各ゼミによる発表
参加者との意見交換

調査結果にみる飯田水引の課題分析

	課題分析
法政大学・酒井ゼミ マーケティング	＜外部環境要因＞ 人口減少／婚姻・結納研修の減少／葬儀の小規模化／ 代替品の出現／原材料和紙の衰退 ⇒水引の使用機会の減少が産業衰退の要因に。 ＜内部環境要因＞ 企業間に格差が生じている。 行政や組合の連携不足している。
京都外大・高島ゼミ 地域活性化	・地域住民への水引産業の浸透不足 市内で飯田の水引が扱われていない ・行政と企業・組合の連携が不足している。 ・企業の横のつながり弱い。

①外部環境の変化に対応した活動が行われていない。
<u>市場拡大のための新しい活動が必要</u>
②個々の活動にとどまり、大きな活動を生んでいない。
大きな活動を生むために、<u>連携と地域への浸透のための活動が必要</u>

水引産業の発展に向けた地域との連携、事業提案

	提案内容
法政大学・酒井ゼミ マーケティング	**＜飯田水引の浸透＞** **「水引の日」制定**…イベント実施のきっかけづくり（水引体験教室、結納体験、企業ブース即売会） **＜販売促進と新商品開発＞** **水引チャート**…オーダーメイド型の水引利用検索ツール **水引コンテスト・異業種連携** 特定の分野における水引デザインの募集デザイナー発掘 **りんご水引**・新しい水引（りんご残渣を使用した水引）の開発 **＜用途開発＞** **水引フルーツキャップ** 冠婚葬祭以外における水引の付加価値利用
京都外大・高島ゼミ 地域活性化	**＜域内人材育成＞** **水引検定の実施** 体験教室での検定受験と検定上級者の活用 **＜域内活性化＞** **異業種連携** 京都のブライダル企業との連携 飯田市内でのツアー開発

水引産業の発展に向けた地域との連携、事業提案

	提案内容	コメント
法政大学 酒井ゼミ マーケティング	＜飯田水引の浸透＞ 「水引の日」制定	発信力がある。9月9日に結納祭（京都）、3月3日「結納の日」あり。統一した動きはないため、飯田主導で産地をまとめられる可能性あり。
	＜販売促進と新商品開発＞ 水引チャート、水引コンテスト 異業種連携、りんご水引	りんご残渣は水引よりも熨斗袋本体に使う方が良い。コンテスト開催はデザイン力の向上、デザイナー育成につなげられる。
	＜用途開発＞ 水引フルーツキャップ	付加価値を生み出すことは可能だが、素材が向いていない。
京都外大 高島ゼミ 地域経営	＜域内人材育成＞ 水引検定の実施	ゲーム感覚で歴史や技能の継承を学ぶことができるが、ブランド化は別に進める必要がある。
	＜域内活性化＞ 異業種連携	企業連携は可能だが、産地連携は難しい。

共同調査実習による教育的効果と到達度

1　教育的効果

①ヒアリング力、聞き出す力
一度に複数の企業訪問・ヒアリングをすることで、
相手に合わせて臨機応変な対応が必要なことに気が付く。
（同じ質問であっても、相手によって聞き方を変えるなど）

②受け入れる力、広い視野
異なる分野、異なる文化で学ぶ他大学の学生と一緒に過ごすことで、
多様な考えや行動を受け入れる。

2　到達度

①2つの視点を提示…マーケット目線、地域目線
マーケティングを専門にする学生と地域活性化を専門にする学生が共に学び
それぞれの視点から課題と課題解決策を提示することにより、
産業活性化への取り組みにはどちらの視点も必要であることを提示。

②企業による方向性の違いと情報共有
①の場をもつことで、マーケティングを重視する経営者と
地域への浸透を重視する経営者の存在が明らかに。
また、他の産地やこれまでの取り組みなど、
水引産業に関する情報共有の場となった。

ご静聴ありがとうございました